

2020年 1月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

- 1月 5日 (日) 集会 (アクト研修交流センター 403号室)
司会 : 大手 美千代 感話 : 榎本 潤
聖書講話 : マルコによる福音書 2章 18~27節
「断食問答と安息日のできごと」 水戸 潔
- 1月12日 (日) 集会 (アクト研修交流センター 403号室)
司会 : 生江 扶左子 感話 : 武井 めぐみ
聖書講話 : マカバイ記一 1章14 ~ 15節
「ヘレニズム時代のユダの歴史~マカバイ記一、二を読んで」 溝口 春江
- 1月 26 (日) 集会 (アクト研修交流センター 37号室)
司会 : 永井 徹 感話 : 相原 夏江
聖書講話 : イザヤ書 21~23章
「泣き、嘆き、髪をそり落とし、粗布をまとえ」 武井 陽一

..... 通 信

- 日本キリスト者医科連盟静岡部会・デンマーク牧場福祉会 共催による講演会のお知らせ
- 場所 : デンマーク牧場 まきばの家
日時 : 2月 22日(土) 13時30分から 16時頃まで
内容 : 「尊敬のまなざし」 (仮題)
講師 : 島 しづ子 氏 (名古屋堀川伝道所 牧師 愛美の会)

『終末の徴』と現代 —浜松市憲法を守る会行進の始め—

溝口 正

マタイ福音書 24・1~14

この行進のヒントは私の心の内ではイザヤ書 20 章にある。アッシリアの王サルゴンがアシュドドの反乱を鎮圧した年 (前 711 年) に先立って 預言イザヤに神の命令が下った。イザヤ 20・2。これはイザヤに命じられた行動預言であるが、やがてエジプトはアッシリアに粉碎され裸・はだしの奴隷とされる。祖国ユダよ、エジプトに依り頼むなかれ、ただ神にのみ信頼せよという意味を告げたもので、エルサレム市内を 3 年間も歩き回ったと記されている、私の心の中ではこれがヒントとなって 憲法九条のゼッケンやプラカードを持って神の御心に従おうとして始まったのである。神に祈って始まった働きは、イザヤのように 3 年では終わらず、すでに 2005 年 2 月で 457 回目 (日数にして 38 年と 1 か月) (2019 年 12 月 8 日で 634 回、55 年 1 か月) 続いたが、神からの中止の命令が出るまでは今後も続くであろう。

しかしこのような平和行進、日本の平和も世界も実現しないことは百も承知である。それを承知しながら、地球環境問題や核兵器問題その他の終末の徴 (しるし) を見る時、終末の足音がひたひたと迫りつつあるように聴こえて肅然とするのである。最終的には世界を支配したもう神が、最後の審判を経て永久平和の神の国を実現してくださることを待ち望みつつ、人々の心に平和の大切さを諄々 (じゅんじゅん) と訴えるのである。

イエスは悲惨な戦争 (、暴動) が起きても「(そういうことは起こるに決まっているが、) まだ世の終わりではない」と言われた。この世の歴史はまだ続く。神が終末を来たせうまで、審判主にして救い主なるキリストを信じ、十字架の赦しを伝え、み言葉に従い隣人を愛し、地上の平和を作り出す働きをも静かに続けることが今日ほど大切な時はないと私は考えている。

『復活』457~458 2005年2~3月 (注: 武井が適時追加した)